

市報

# 大分いた

8.1.1

No.1188

明けまして  
おめでとう  
ございます

特集

- ◆新年のあいさつ ..... 2~3
- ◆地域に密着した都市づくりを ..... 4~7
- ◆平成7年大分市10大ニュース ..... 8~9
- ◆貴重な体験を活字に ..... 10

## 新年のあいさつ



大分市長

木下 敬之助

新年明けましておめでとうございます。

市民の皆様には、輝かしい新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

昨年は、阪神・淡路大震災や金融不安、いじめによる自殺の多発など、暗いニュースが目立ちましたが、本市においては「自然を生かした、やさしさあふれる、魅力ある都市づくり」を基調に、地域の声と特性を生かした、市域全体が活き粹と躍動するまちづくりが推進でき、危機管理体制の確立や自主防災組織の結成といった災害に強い安全なまちづくりにも取り組むことができました。これもひとえに、市民皆様の温かいご理解と絶大なご協力の賜と厚くお礼申し上げます。

さて、本年は、地方分権の潮流の中、中核市や保健所政令市への移行を一年後に控えて、21世紀に向けた都市づくりのための諸施策を着実に実現していく重要な年ととらえております。平成9年をスタート年次とする「2010大分プラン」を策定するとともに、昨年発足した地域活性化懇話会の提言や政策アドバイザーの助言、さらには、国、県との連携の

中で、大分のまちづくりに市民の皆様と双方向で全力を挙げて取り組みたいと考えております。

とりわけ、本市にとりまして、最重要課題であります大分駅周辺総合整備事業の早期事業化に努めるとともに、道路や上下水道などの各種基盤整備を積極的に進めてまいります。また、3月には、大分市も全国高速道路網連結時代を迎えることから、県都としてふさわしい都市機能の充実を図るため、FAZ構想、ウォーターフロント構想並びに県のスポーツ公園構想と調和のとれたスポーツ施設の整備などを推進するとともに、交流人口の増加をにらみ中心部商店街の活性化や観光基盤の整備、さらには、農業商品流通研究会、大分名物新魅力創出研究会などの提言をもとに生産、流通、サービスのバランスある発展と新しい魅力の発掘、開発にも取り組みます。

文化、教育面では、美術館建設に本格的に着手するほか、全国に情報発信する「つか演劇」の公演、河原内陶芸樂習館や余裕教室の活用に努めます。

さらに、老人保健福祉計画の早期達成など、保健、福祉、医療の充実に力を入れる考えです。

今後とも、県都としての自覚と責任のもと、住み心地の良い、魅力ある、活力ある、元気都市おおいたを実現するため、時代を先取りした事業を積極的に推進してまいる所存です。

市民皆様方には、変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、この一年が皆様にとってよい年でありますようお祈り申し上げ、年頭にあたつてのごあいさつといたします。

## 新年のあいさつ



大分市議会議長

広瀬 和生

政に携わる権能と責務を改めて深く認識し、市民の厳肅な信託にこたえるため、独自の「大分市議会議員の政治倫理に関する条例」を全会一致で可決し、市民の市政への信頼をより強固にしていただこうといたしたところでございます。

本年は、大分自動車道が全線開通し、東九州の中核都市としての大分がいよいよハイウェイ時代に入する年でございます。そうした中で地方の時代にふさわしい、政令指定都市に準じた権限をもつ新しい都市制度「中核市」への移行を念頭に置いて、より市民に密着した行政を展開していくかなければならぬ年であると考えております。

また、現在の社会経済情勢は、21世紀を目前に控

え、国際化、情報化、高齢化が急速に進みつつありますことから、克服すべき多くの課題を抱えており、行政需要はその量、質ともに、ますます複雑多様化いたしております。

市議会といたしましては、議員が一致協力して、今後さらに創意工夫を重ね、市民皆様の声を市政に反映させ、明日の大分に暮らすことを誇りに思つていただけるような真に豊かな都市とするために、本年も全力で取り組むべく、決意を新たにしております。これからもどうか変わらぬご支援、ご協力を賜りますよう、心からお願ひ申し上げます。

年頭にあたり、市民皆様のご多幸とますますのござりますよう、心からお願ひ申し上げます。

さて、昨年は、全国的には凶悪犯罪の多発や金融機関の倒産に象徴される「不安感」におそれた年でございましたが、幸いにして、私たちの街大分では、大分駅高架化と周辺整備事業をはじめ、大型事業が着実に前進した年でありました。

また、市内の各地域では、心の通った交流を基本とし、それぞれに特色ある地域づくりをめざした「地域活性化懇話会」が市内を8分割して組織され、さらには、市全体としての将来像を描く「2010大分市総合計画策定委員会」が発足するなど、21世紀へ向けた発展のための構想を創出する努力を重ねてまいりました。私もこの策定委員会の会長として、本年7月、市長への答申に向け、より市民皆様の声を反映した計画とするために全力を挙げているところでございます。

市議会におきましても、全国に先駆け、議員が市

发展をお祈り申し上げ、新年のごあいさつとさせていただきます。

# 地域に密着した都市づくりを ～2010大分まちづくりシンポジウムから～

11月24日、コンパルホールで、「2010大分まちづくりシンポジウム」が、2010大分市総合計画策定委員会（会長広瀬和生市議会議長）主催により開催されました。

このシンポジウムは、現在進めている「大分市総合計画」の策定にあたり、21世紀の大分のあるべき姿を市民の皆さんとともに探ろうとして開かれたものです。

## 出席者

★コーディネーター  
黒川 洋氏  
(東京工業大学教授)  
★パネラー  
沢田 秀男氏  
(横須賀市長)  
伊藤 佑一郎氏  
(自治省行政局振興課長)  
木下 敬之助  
(大分市長)



黒川 洋氏  
交通計画、都市施設設計画の第一人者として、大分市が7年4月に策定した「大分市総合都市整備基本計画」の策定委員会委員長としてご尽力していただきました。主な著書に「土木工学体系」、「新土木工学体系」などがあります。

今日は、「地方中核都市は2010年に向けて、今何をなすべきか」というテーマで3人の方にそれぞれ意見をお伺いしたいと思います。最初に伊藤課長さん、地方分権や中核市が今、どのように議論されているのかについてお願ひします。



伊藤 佑一郎氏  
昭和47年、自治省入省後、石川県庁、埼玉県庁においても要職を歴任され、現在、自治省行政局振興課長としてご活躍中です。

## 中核市の指定がその都市の発展への契機に：

伊藤 昨年の地方自治法の改正により、中核市制度を導入しました。この制度の主旨は、住民に身近な地方公共団体でやつていただこうというものです。中核市としての要件は、人口が30万人以上、面積が100平方キロメートル以上、また、人口50万人未

27市のうち、独自の保健所を持つている12都市が平成8年4月1日からの中核市の指定に向けて作業を進めています。指定を受けた場合、政令指定都市に比べ権限は少ないのですが、民

満の都市については、昼夜間人口比率が100を超えることです。この中核市制度は、政令指定都市に続く市について導入されましたが、全国地方公共団体3、232のうちで対象となる都市は、大分市を含めて27市あります。



木下 敬之助  
(大分市長)  
中核市の指定がその都市の発展への契機に：

生関係、保健衛生、都市計画、環境保全などの権限が移譲されます。特に、これから高齢化社会において、保健所の設置は保健や福祉を一括して行政を行う際に、大きな効果を示すのではないかと思われます。社会において、保健所の設置は保健や福祉を一括して行政を行なう際に、大きな効果を示すのではないかと思われます。このように中核市の指定が、その都市の発展の契機になると私は思っています。自治省としましては、権限の移譲に併せて、地方交付税制度できちんとした財源措置を講じるつもりです。

沢田 秀男氏  
昭和32年に自治省に入省後、大蔵省や国土庁に勤務。また、地方の県庁勤務経験もあり、広島市が一般市から政令指定都市に変わる時の助役であり貴重な経験の持ち主。現在は、横須賀市長としてご活躍中です。

## 交流こそ都市の魅力

沢田 秀男氏  
わたしは、国、県、政令指定都市、一般市と多様な経験をしてまいりましたが、市長として行政を担当している横須賀市では、一般市であるがゆえに権限があまりにも小さく、都市づくりで毎日いら立つ思いをし

ています。横須賀市は先般、1,000万人足らず、面積も人口もクリアしていますが、昼夜間人口比率は100を切つており、中核市にはなれません。しかし三浦半島の中核都市を自認し、現実にその機能も役割も果たしています。

2010年に向けて何をなすべきかは、3つの次元で考えるべきがあるのではないかと思っています。1つは2010年ごろに世人の市民の参加を得て都市計画マスター プランをつくり、これを基に2025年を目指にした基本構想と2010年を目標に

## 個性ある都市づくりには、地方分権の推進が必要

木下 敬之助  
住民に身近なものは、住民に身近な自治体が権限を持つていた方がよいということでした。核市の指定に向けて努力すべきと判断し、大分市は平成9年4月、第2陣の先頭を切つて指定を受けたいと思っています。

その時は当然、保健所も大分市で持つようになりますが、保

ういう状況で都市としてどうあるべきか、3つ目はその中でどうすべきかです。

横須賀市は先般、1,000万人足らず、面積も人口もクリアしていますが、昼夜間人口比率は100を切つており、中核市にはなれません。しかし三浦半島の中核都市を自認し、現実にその機能も役割も果たしています。

2010年に向けて何をなすべきかは、3つの次元で考えるべきがあるのではないかと思っています。1つは2010年ごろに世人の市民の参加を得て都市計画マスター プランをつくり、これを基に2025年を目指にした基本構想と2010年を目標に

した基本計画づくりをしていまことをテーマに設定し、交流を支える交通網の整備、交流をしようという気を起こさせる海と緑の整備、交流を生む都市活動の舞台づくりの3つのものに集約して考えています。

健所設置に伴う財源も考えていただきたいと思います。

分権を進めるにあたって、自治体が決めるべき課題というのは、自治体の側で決めさせていただき、そして國の方が指導すべきもの、また國全体で判断しなくてはならないものは國で決めるという考え方で決めていいのではないかと思っています。

また、権限は身近なものばかりに、個性ある都市づくりをしていくために、余裕が必要です。いろいろな意味で、少しでも裁量が中核市に下りてくる中で、また今後の分権の流れの中で自由な都市づくりをさせていただけるようになつたらあります。

そして、大分はこんな都市であつてほしいという構想は住民と市でつくり、それを県も国も尊重してくれるというシステムを国と県と市の役割分担の中で考えていくべきではないだろうか。また、いろいろな課題の優先順位を住民が選択して決めるという自治体としての姿勢が、これらの将来に向けての中核

市での役割ではないでしょうか。



英語にて回力の問題と  
交流を

**伊藤** 分権を進めるには、権限、財源、人間の移譲が必要です。地方自主財源の強化が地方自治制度の根幹を占めるので、将来は自分で決め、責任を取る形が望ましいと思います。

**黒川** ここでフロアの皆さんから質問がありましたら、お願ひします。

将来に向かひの懇議と  
交流を

すが、都市のいろいろな機能に

**黒川** 伊藤課長さん、今、何をなすべきかについて、もう少し具体的にお聞かせください。

**伊藤** 地方分権を今後進めなければならぬ大きな理由は、地方がそれぞれの特性を生かすためではないかと思います。

地方分権で大切なのは、自分たちのことを自分たちで決めるシステムをつくることです。中核市になつた場合、身近な行政が自分たちのところで、しかも包括的、体系的に提供でき、住民の方々にも非常に便利にな

自分たちの「J」とは、自分たちで決めるシステムづくり



後から国土軸ができる方が自然だと思います。

**沢田** 大分市は前途に可能性を持つた市であると感じました。

伊藤 大分市では、市を8つのブロックに分けてアイデアを吸い上げる形を取っているようですが、今後はそれを充実させてほしい。そうすれば、高齢社会において地域の相互扶助のシステムとして、大きな意味を持つと思います。

**黒川** 最後に、大分市の将来について、ひとつずつお願ひします。

軸ができる可能性があるはで  
きると決まった時に考えるのではなく、将来に向かうべきかをこの時期に論議していくべきだと思います。わたしも、黒川先生と同じでいろんな交流があつて、軸ができるのが自然で、それに合わせて受け皿となる上・下水道や道路、橋などの整備を見直し、論議していき方がいいと思います。

新國土軸で大分が四国とつな

**都民へのJTB連盟の  
アイデアと実行が必要**

沢田　わたしは、権限がないゆえに思つよう都市づくりができないでいることを中心に、分権化を進めてもらいたいと思っています。その中心は、都市計画です。中核市については、力があるから国の権限を移譲しようという仕組みです。ところが、都市計画は全く逆で、特に大きな都市については、国土利用上極めて重要だから国が都市計画決定の権限を留保する。人口25万人以下の市町村については、それほど重要ではないから都市計画決定の権限を与えようといふのです。ですから都市計画については、思い切つて都市計画法を抜本的に改正するぐらいの意気込みで取り組んでほしいと痛切に思つております。それに、制度として分権が進んでも魂を入れなければ分権は身に付きません。住民の気持ちが整うことも大切です。

**木下** 大分市も駅高架事業などが始まり、大きな改造が進んでいます。これからも、市民の皆さんのご協力でまちづくりを進めていきたいと思っています。

This aerial photograph captures the Naha Station area in Okinawa. The central focus is the large, modern Naha Station building, which features a distinctive curved roofline. To the west, a dense cluster of buildings, primarily residential and office structures, extends towards the horizon. A major railway line cuts through the city, with several tracks visible. In the foreground, a large, open construction site or industrial area is characterized by a grid-like pattern of roads and construction equipment. The surrounding terrain includes various parks and smaller buildings, illustrating the urban sprawl of Naha.

がれば、大阪や東京に非常に近くなり、大分の地理的位置を一挙に引き上げることになります。その完成によって通過する人が増えますが、その交流人口をどのように地域の経済に生かしていくかということも考えて、それなりに大分をご案内できる箇所を整備していくといった大分の魅力づくりをしていきたいと思っています。また、大分における未来の経済基盤として、新しいメディアを使った産業など大分で新しい形のものを考え、若者の就職の場、個性的な仕事を求めている人の雇用の場もあるような大分になればいいなと思っています。行政は2010年に向けてあらゆる情報を集めて作業をしていますが、市民の皆さんには地域に密着し、それぞれの専門の仕事の中で得られたたくさん情報を持つておられます。それらを十分發揮していただいて、2010年に向けて一番必要であることや、短期間に解決してほしい課題、2010年に向けての未来像を踏まえたアイデアを大いに持ち込んでいただきたいと思っています。

そして、出来上がった計画案は一緒に実行してほしいし、実現可能な提言にしていただきたいと思っています。

## 中央町商店街とサンサン通りのリニューアル (273票)

9月に中央町商店街とサンサン通りのリニューアル工事に着手。これは、魅力と活力にあふれる都市づくりのため「商店街高度化施設設置事業」として官民一体で取り組むもので、3月末に完成予定です。



## 蒲田行進曲完結篇「銀ちゃんが逝く」を大分で公演 (245票)

11月3日から演劇らいぶ'95つかこうへい作・演出蒲田行進曲完結篇「銀ちゃんが逝く」を大分でロングラン公演。観客の3分の1は県外からという盛況ぶり、西洋演劇発祥の地として全国に情報発信をしました。

## あなたが選んだ

## 平成7年大分市

市民の皆さんに選んでいただいた平成7年の大分市10大ニュースが決定。全部で368人の方々からご応募をいただきました。

10大ニュース圏外には、皇太子ご夫妻来県やサンバチキリンの登場、お米の豊作などいろいろな話題がありました。

## 最新消防緊急通信指令システム完成 (162票)

5月10日、最新のコンピューターを駆使した消防緊急通信指令システムが稼働。119番通報地点を瞬時に地図で表示し、最短で行ける消防車や救急車を自動選択するなど、緊急時の情報管理に力を発揮しています。



## 市営温水プールがリフレッシュオープン (223票)

7月21日、西浜に市営温水プールがリフレッシュオープン。コースを増設したほか、水深を調節できる可動床システムを採用。市内で、市営初の25m公認プールとしてグレードアップしました。



## 消防局などが「阪神・淡路大震災」復興作業に職員派遣 (247票)

1月から6月にかけて、阪神・淡路大震災の被災地に大分市消防局をはじめ、水道局や建築課、社会課など職員を派遣。救助支援や復旧の応援、漏水調査、給水作業など被災地の復興作業にあたりました。



2月



## 豊の国情報ライブラリー(県立図書館)がオープン (289票)

2月28日、約53万冊の蔵書をもつ県立図書館のほか、公文書館や先哲資料館など複数の機能を合わせた「豊の国情報ライブラリー」が南王子町にオープンしました。設計は、郷土の建築家磯崎新氏によるものです。



3月

## 「東九州自動車道大分市～津久見市間」の着工 (204票)

3月16日、「東九州自動車道大分市～津久見市間」の起工式が大津留で行われました。この区間は4車線の一部暫定2車線で大分自動車道米良インターチェンジを起点に津久見市までを27.5kmで結びます。

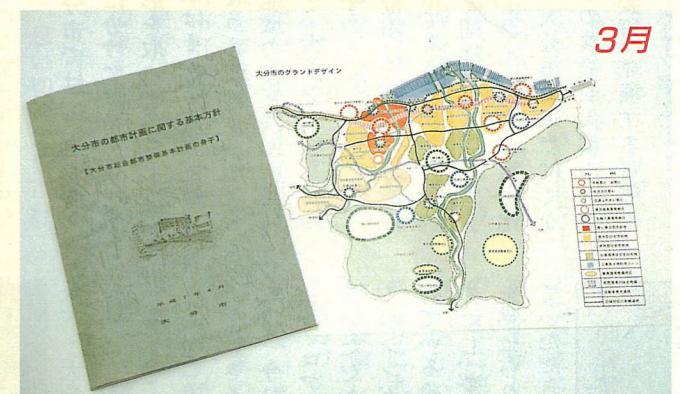


## 木下市長2期目の就任 (217票)

4月23日に行われた大分市長選挙で、木下敬之助市長が2期目の当選を果たし、4月25日、多くの職員が出迎えるなか市役所に初登庁。当選証書を受け取りました。



3月



## 「大分市の都市計画に関する基本方針」がまとまる (133票)

21世紀の大分市を見据え、広域都心や道路網の整備、自然を生かした都市づくりなどを盛り込んだ「都市計画に関する基本方針」が、3月27日、市都市計画審議会で承認されました。



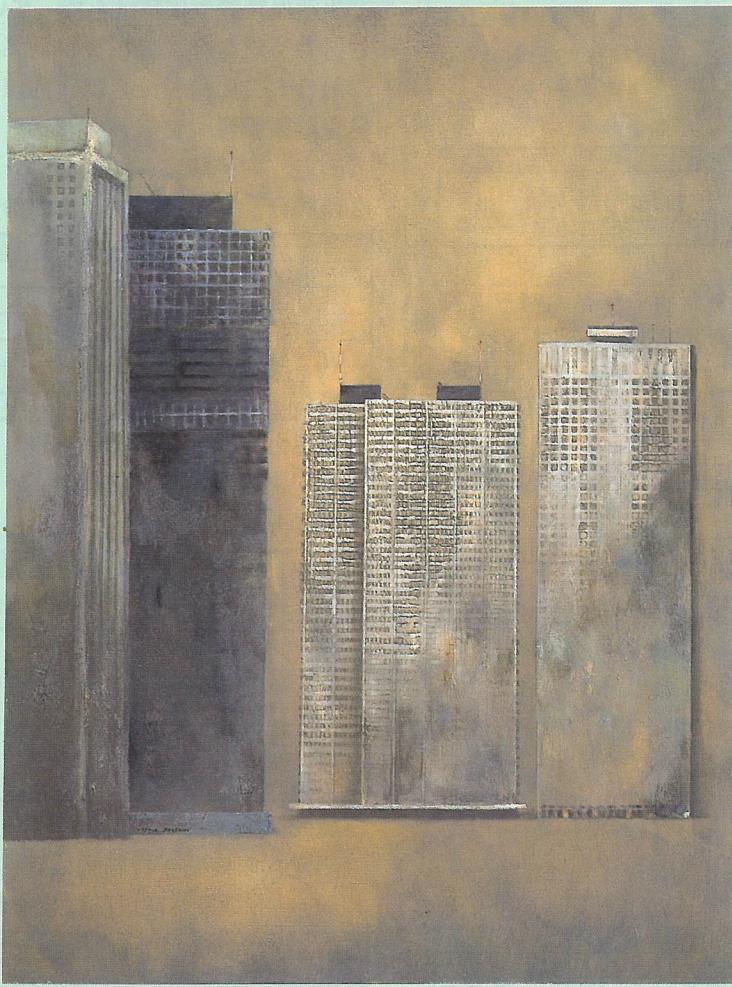




## ギャラリーおおいた(市所蔵美術作品シリーズ⑨)

### 「四つのビルディング」糸園和三郎作(昭和49年油彩)

「四つのビルディング」は新宿副都心高層ビル群を取材した作品。この絵が描かれた年には新宿住友ビル、三井ビルディングなどが相次ぎ建設されています。作者がこのように同時代の世相を反映させた作品はほんの数例。本作では単なるビルではなく、生活する人々の姿をもどこか連想させる印象を与え、それゆえ現代と人間のかかわりが画面に込められているようです。



糸園和三郎(明治44年~)

中津市生まれ。精緻な絵肌によるヒューマンな作風で知られる洋画壇の重鎮。美術文化協会、自由美術協会などを経て現在無所属。昭和32年第4回日本国際美術展にて佳作賞、同43年第8回現代日本美術展にてK氏賞受賞。

### フレッシュおおいた

TOS 午前7時~7時15分

1月6日(土) 新春インタビュー

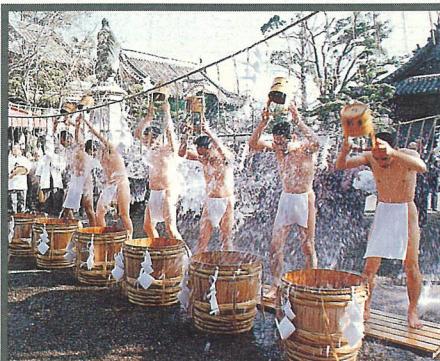


~木下市長に聞く~  
大分駅高架化のこれから、高速時代到来について、福祉や観光、中核市など、新年にあたってまちづくりへの抱負を木下市長にインタビューします。

1月13日(土) めざせ/スポーツの星②



~大分市スポーツ少年団~  
スポーツを通じてひととや仲間づくりをめざすスポーツ少年団。今回は、上戸次ミニバスケットボール、舞鶴ハンドボール、東種田剣友会を紹介します。



鶴崎校区

法心寺(水行会)

街角ウォッチング



で1月11日、午前10時30分から恒例の水行会が行われます。この水行会は、交通事情が変化した昭和36年から交通・海上安全を祈願し、犠牲者を供養するための荒行です。りんとした空気が漂い、多くの信者や見物人が見守る中、力強い掛け声とともに数人の修行僧たちが、お経を唱えながら勢いよく冷水をかぶります。白い蒸気が立ちのぼり、修行僧の肌はうつすらと赤く変わると、見物人からどよめきがわきます。見ているだけで気持ちが改まるかも…。年の初めにふさわしい行事を見物に行きませんか。